

○「東京における都市計画道路の在り方に関する基本方針（案）」に対する意見・提案

1．東京における都市計画道路の方針を変えた理由をご説明ください。

第四次事業化計画では、人口減少しても都市計画道路の整備を推進するというのが方針でした。

「東京においては、人口が減少に転じて、日本を牽引する社会経済活動や物流ニーズの多様化、余暇活動などによる人々の交流など、引き続き活発な都市活動を維持していかなければなりません。そのため、東京の都市活動を支える都市計画道路の整備を進め、将来人口の動向を見据え、バス交通の充実や安全な歩道設置などにより、移動の円滑性を高めていく必要があります」という説明でした。2016年3月の第四次事業化計画では、見直し対象となった路線は、わずか9路線、約5kmだというのが結論でした。

東京における都市計画道路の在り方に関する基本方針（案）では、「整備すべきものは整備し、見直すべきものは見直す」と根本的に、考え方をえています。

東京における都市計画道路の在り方に関する基本方針（案）ではわずか3年しか経過していないのに関わらず、「整備すべきものは整備し、見直すべきものは見直す」に至った背景や経緯をきちんと説明してください。

2．第四次事業化計画と専門アドバイザー委員長ほか、重複メンバーがいることは疑問です。

考え方をえた以上、第四次事業化計画の専門アドバイザー委員長が同じく、東京における都市計画道路の在り方に関する基本方針（案）のアドバイザー委員長で、見直しができますか？改めて今回の在り方では、見直しの視点で有益なアドバイスができるアドバイザーに入れ替えてください。最低限、委員長は変えるべきです。

もしくは、事業化計画で見直しがほとんど出来なかったということは、アドバイザーとして仕事をしていなかったわけで、第四次事業化計画の際に都民の税金で払った報酬の返却をもとめてください。

3．見直しの対象となる路線数も公開してください。

1,415 路線、3,213 km（平成 29 年度末時点）の都市計画道路のうち、第4次事業化計画で優先整備路線に指定されなかった路線 535 kmとありますが、見直し対象となる路線数を明確にすべきです。公開してください。

4．見直しの主体、及び、意見をする窓口について

「東京における都市計画道路の在り方に関する基本方針（案）」の検証結果に示されている青線で示された「広域的な道路」と、赤線で示された「地域的な道路」と分けられています。

都市計画法 15 条五にある通り、「一の市町村の区域を超える広域の見地から決定すべき地域地区として政令で定めるもの又は一の市町村の区域を超える広域の見地から決定すべき都市施設若しくは根幹的都市施設として政令で定めるものに関する都市計画」は、都道府県、それ以外は、市町村が定めるとされています。青線で示された「広域的な道路」が、15 条で言うところの都道府県が定まる都市施設にあたります。「地域的な道路」が、市町村が定める都市施設にあたります。

ほとんどが旧都市計画法時代に計画決定された都市計画を、現在も引っ張っているわけで、今回、「整備すべきものは整備し、見直すべきものは見直す」としているのであれば、都市計画法を定める役割を持っている行政に窓口を移すべきです。

すなわち、「地域的な道路」の見直しについては、各市町村に移すべきと考えますが、いかがでしょうか？

5. 計画重複等に関する検証について

計画重複の検証の対象は、「双方の事業化に支障とならないよう 国指定の史跡・名勝、鉄道、調節池を所管する

関係機関と調整を行い、これを踏まえ、都市計画道路又は都市計画公園等を都市計画変更する方向性」としており、必ずしも都市計画変更を行うべき路線ではなく、該当する公園に必要な機能（レクリエーション機能、防災機能、環境保全機能、景観形成機能）の確保を考慮するかを検討するのが目的です。であれば、第四次事業化計画で、有線整備路線に指定されなかった路線に限らず、事業化に至っていない小金井 3・4・1、小金井 3・4・11 路線についても同様に検討の対象を広げるべきです。

6．小平市の路線について

計画重複等に関する検証については、小平 3・3・3 号線（新五日市街道）、小平 3・4・20、小平 3・4・22、小平 3・1・2（五日市街道）が、国の史跡の玉川上水と交差します。三鷹市では、玉川上水緑地と交差する三鷹 3・4・12 と三鷹 3・4・13 と交差する路線として挙げられています。同じく杉並区の補助 128 号線、補助 133 号線についても、玉川上水緑地と交差する路線として、検証結果にあげられています。

小平市に残された玉川上水は、江戸時代の素掘りがそのまま残されているという意味でその美しい緑道は、景観は遺構でもあります。市外から散策に来る人も少なくありません。その景観の良さという意味では、三鷹や、杉並に負けない価値があります。

同じく計画重複等に関する検証としてあげてください。玉川上水の景観を守りながら、都市計画道路を整備する方法としては、都市計画道路を地下化する方法も考えられます。

以上